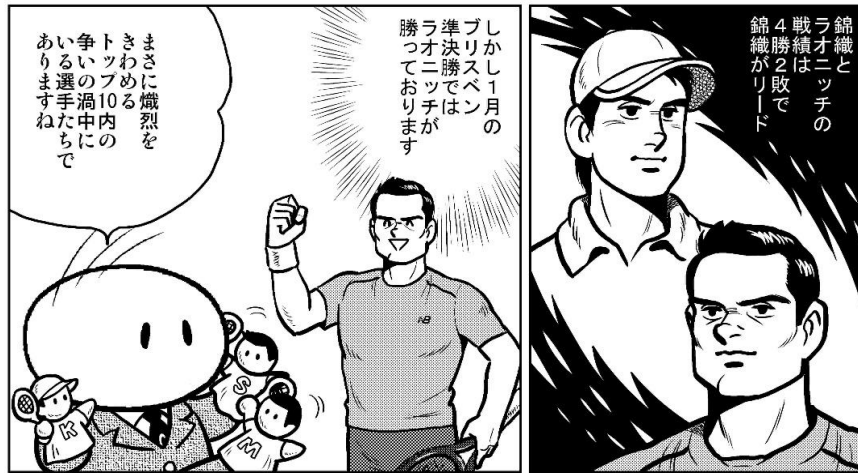
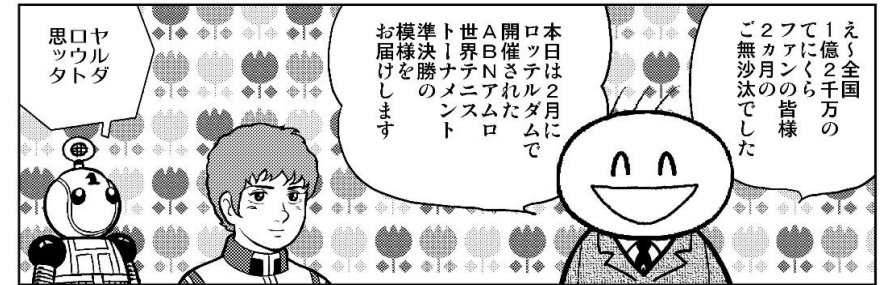
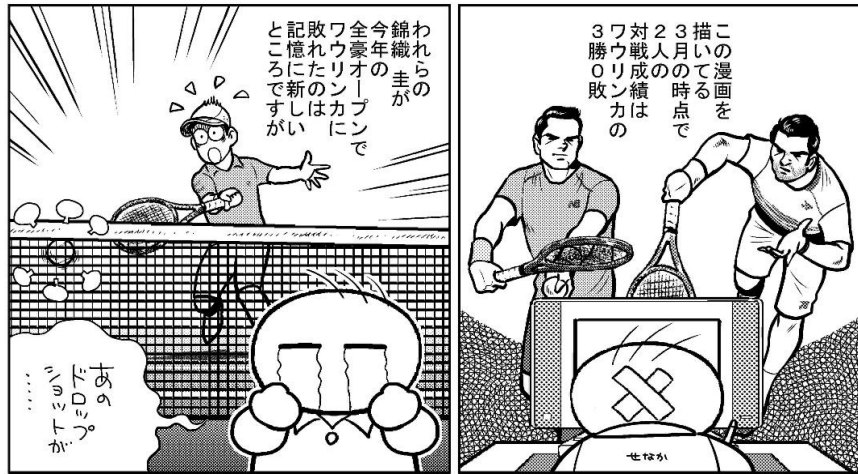


《ミニブレイク161》

ラオニッチの進化

監修/辻野隆三 (MIRAI TENNIS ACADEMY) 作画/石川正順



ミロス・ラオニッチ

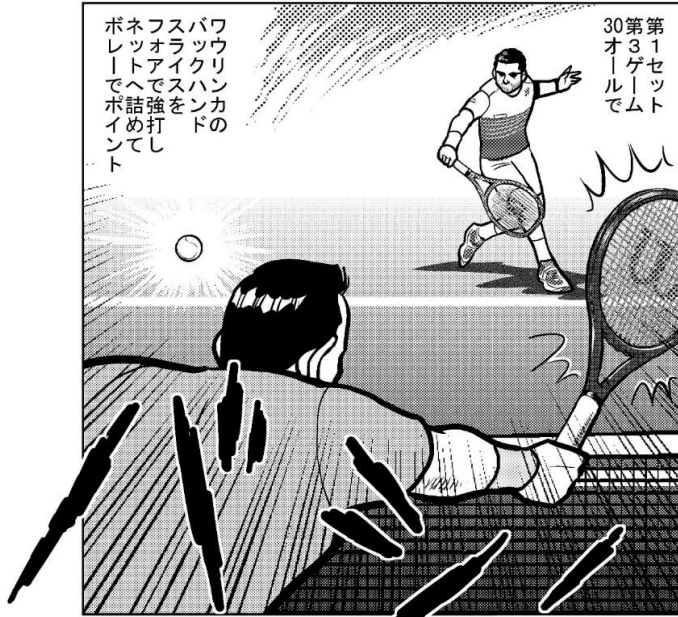
1990年12月27日生まれの24歳
身長196cm / 体重98kg
モンテネグロ・ポドゴリツァ出身
対戦時のランキング6位

スタン・ワウリンカ

1985年3月28日生まれの30歳
身長183cm / 体重81kg
スイス・ローザンヌ出身
対戦時のランキング8位



Point ②



第1セット
第3ゲーム
30
ワウリンカは
バックハンドの
スライスを打
つオアで強打し
ネットへ詰めて
ポイント



前ページのように
ラオニッチは
今回積極的に
ネットに出
て

そのタイミングは
主にワウリンカが
バックハンドで
スライスを打つ
時でした

Point ①



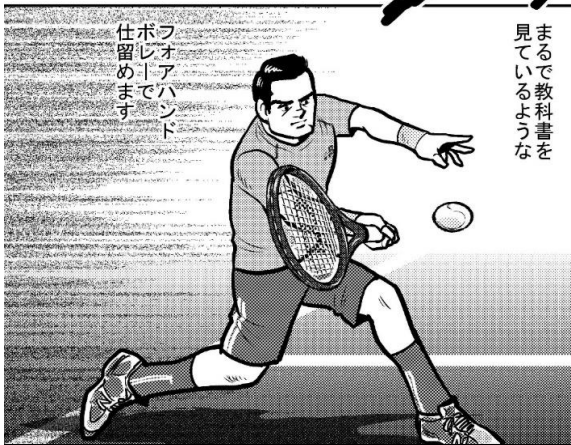
ワウリンカと
戦う時は
彼の得意とする
強烈なバックの
ダウンザ・ライン
をいかに
封じ込めるか
ポイントと
なります



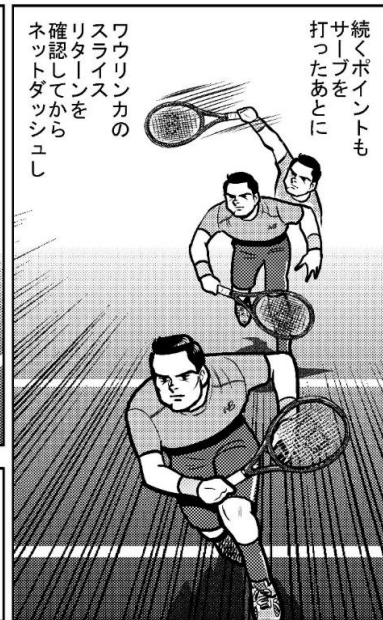
ワウリンカに
打たせ続け
フオアで
また同じゲームの
2度目の
アドバンテージ
ワウリンカの
場面でも



第1セット
最初の
2ポイント
は
いずれも
ワウリンカが
フオアに集めた
ポイントを取
ります



フオアハンド
ポイントで
仕留めます
まるで教科書を
見ているような

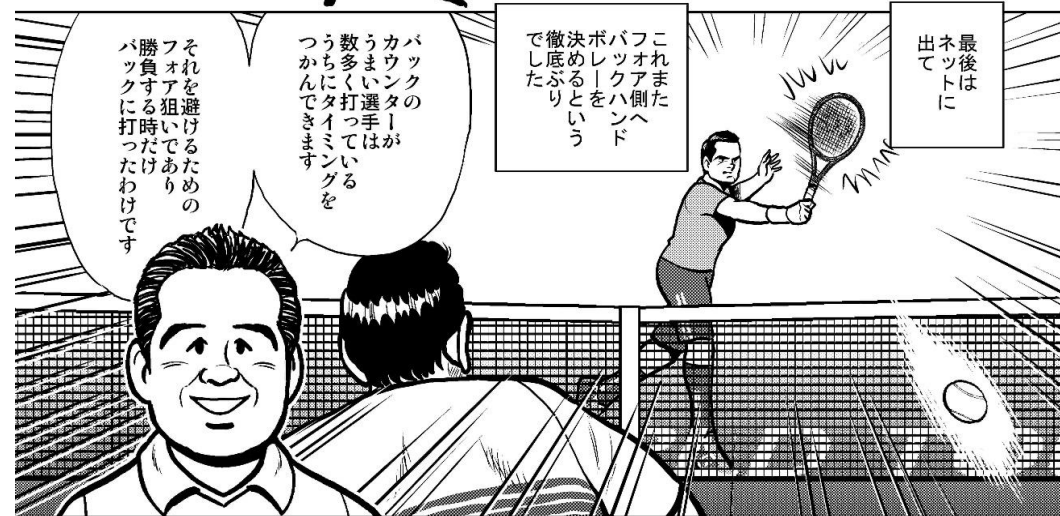


ワウリンカの
スライスを
リターンを
確認してから
ネットダツシ
ュ

続くポイントも
サーブを
打ったあとに



ボサー
はレ
&
相手が
打つた
スライ
を見
前の
ミ



最後は
ネットに
出て

これまた
フオア側
バックハ
ンド
ポレーを
決めて
徹底ぶ
り

バックの
カウンタ
ーが
うまい
選手は
数多く
打って
いる
うちに
タイミ
ングを
つかん
で

それを避
けるた
めの
フオア
狙いで
あり
勝負す
る時だ
け
バック
に打つ
たわけ
です

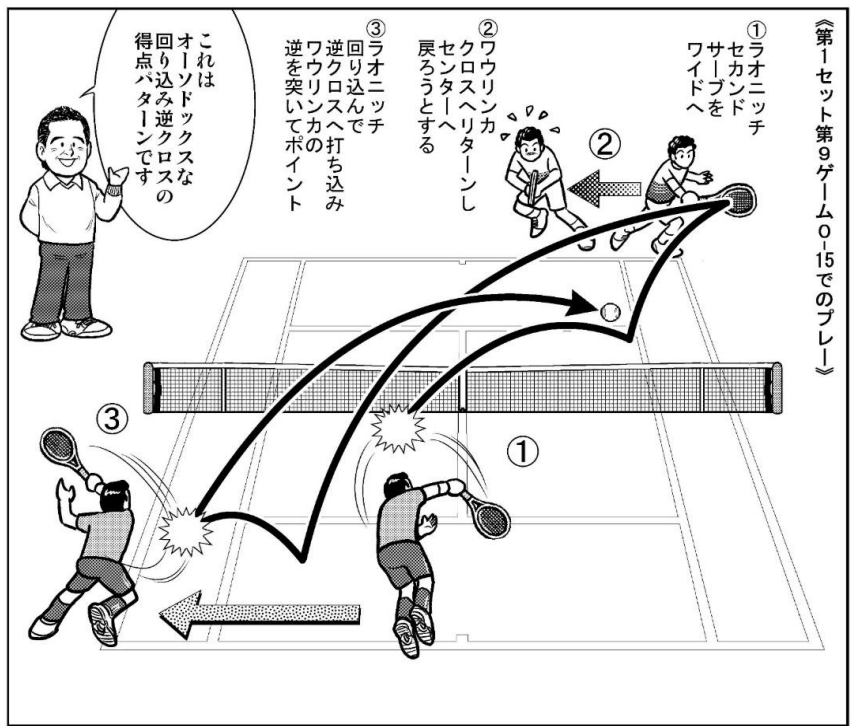


Point ③

ラオニツチの回り込みフォアハンドは世界でトップクラスの威力があります

その秘密はスピードや角度だけでなく

コースの打ち分けにあるのです



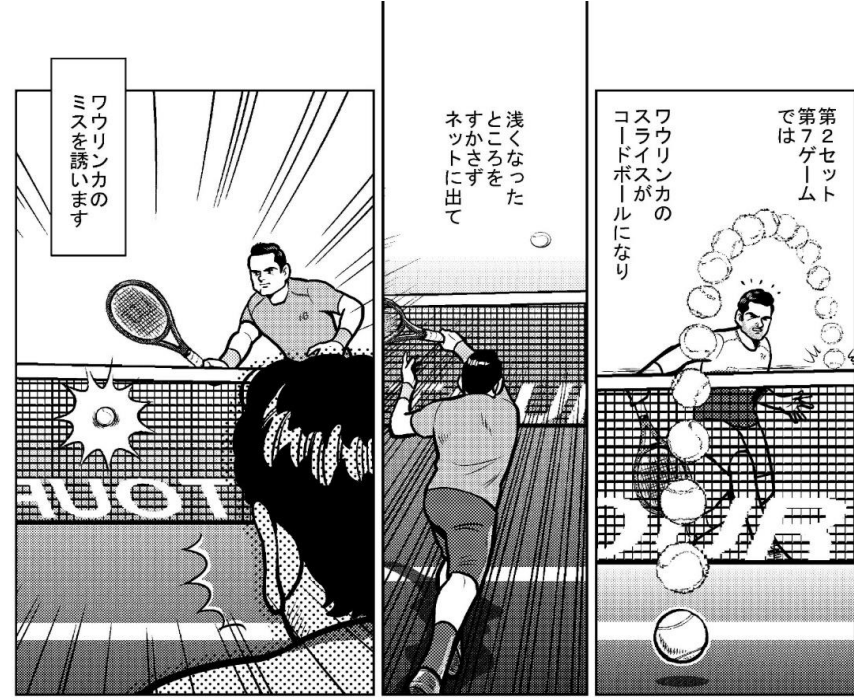
《第1セット第9ゲーム0-15でのプレー》

①ラオニツチセカンドサーブをワイドへ

②ワウリンカクロスヘリターンしセンターへ戻ろうとする

③ラオニツチ回り込んで逆クロスでワウリンカの逆を突いてポイント

これはオーストリアの回り込み逆クロスの得点パターンです

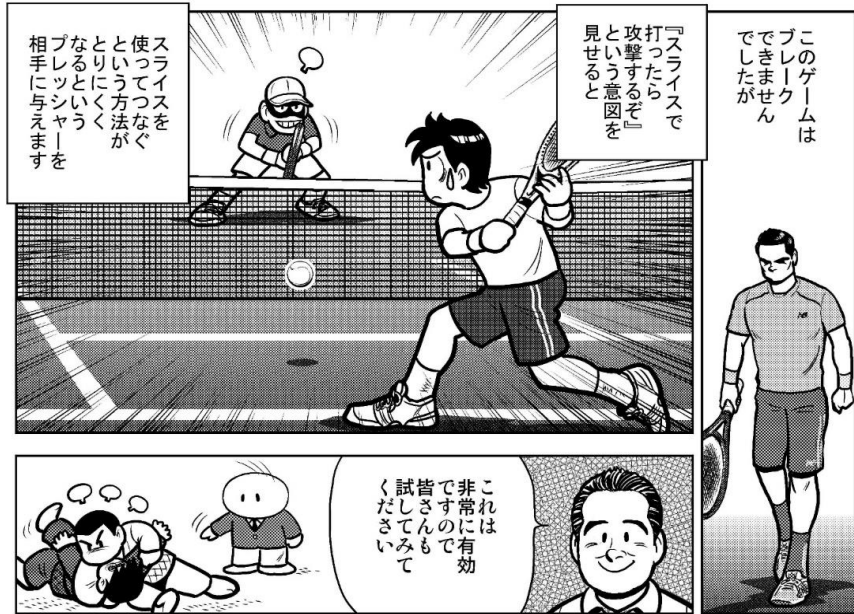


第2セット第7ゲームでは

ワウリンカのコースボールになり

浅くなったところをすかさずネットに出て

ワウリンカのミスを読みます



このゲームはブレイクできません

「スライスで打ったら攻撃するぞ」という意図を見せると

スライスを使ってつなぐという方法がとりこくになるというプレッシャーを相手に与えます

これは非常に有効です。皆さんも試してみてください



